

の実際に合致しているという結論が出ていて興味深い。各説編に思いきったスペースをさいたため、堅実な調査と現地の協力の成果が実って、地方色豊かで資料的価値の高いものとなっている。

(A5判 八二五頁 昭和四五年一月 三木 村役所刊)

(村田 修三)

会 告

会費の値上げについて

本会会費は、昭和四〇年いろいろ据置きのままとなっておりますが、この間、印刷・用紙・製本代をはじめ諸物価の値上りは異常なものがありません。本会では、できます限りの経費節減をかさね、会費の値上りとならぬよう努力を重ねてまいりましたが、もはやそれも限界に達してしまいました。やむなく次号(五四巻一号)より、次の通り値上げをいたしますので、何とぞご了承下さるよう、お願い申し上げます。

記

旧会費 年間一、五〇〇円

(一号当り二五〇円)

新会費 年間一、八〇〇円

(一号当り三〇〇円)

旧定価 一号当り三〇〇円

新定価 一号当り三五〇円

委員会だより

◇ ようやく、六号に到着いたしました。三号・四号あたり、ちよっと薄い号がつづいたものですから、本号、近來にないページ数とし、お約束の年間九〇〇ページを超えました。

◇ 本号「史林」では久方ぶりに口絵にコロタイプを使用したしました。紙背文書にて裏打紙もあって写真がみえにくいので何とかならないか、という著者のお申出により、あえてコロタイプとした次第です。著者にも読者各位にもなるべく鮮明な誌面をこれが「史林」の一モットーでもあるわけです。コロタイプの口絵写真掲載御希望の

方は、どうぞ「史林」へご寄稿下さい。
◇ 別面所報の通り、本誌もついに値上げのやむなきにいたりしました。本誌、実のところ刊行のおくれから、今までに値上げをしそくなってしまいました。くどくど申しあげるまでもなく、このご時世にてご了解いただけるかと思うのですが、よろしく御協力をお願いいたします。

一九七〇年二月二十五日印刷 定価三〇〇円
一九七〇年二月一日発行

史 林 (第五三巻第六号)

京都市左京区吉田本町
京都大学文学部内

発行人 史 学 研 究 会

理事長 織 田 武 雄
振替京都五一五五番

印刷所

京都市下京区西七条御所ノ内中町五〇
中村印刷株式会社